

神奈川支部情報

第12号 発行日 2009年7月30日

<発行者>撫順の奇蹟を受け継ぐ会神奈川支部

<連絡先> 松山英司 TEL/FAX 046(871)4263

e-mail kan.mat.hid@tbc.t-com.ne.jp

郵便振込口座 00190-2-114578

5月30日に開催した第6回神奈川証言集会は、80名近い参加者によって盛大な開催となりました。第1部の金子さん証言については支部情報第11号に収録しました。続いて貴重な話をしていただいた第2部の姫田先生の講演も、以下収録します。昨年の第5回証言集会での講演<無知は無恥なり;戦争の記憶を風化させないために>と併せてお読みいただければなお、意義深いものになることでしょう。3~4ページに当日のレジュメと年表を掲載してあります。

歴史事実と歴史認識の狭間で;タモガミはなぜもてる?!

無知であってはいけない!

本当に実体験をされた金子さんの後に話すことは大変話づらいのです。金子さんは89歳です。命をかけてお話してくださっています。私の話は金子さんのお話しと比べると、どうしても抽象的な話になると思いますがよろしくお願いします。

川崎市多摩区の明治大学の中に旧陸軍登戸研究所があります。そこでは日本の戦争の極秘の部分、すなわち偽札作りというとんでもないことを日本軍がやっていました。これもやはり加害責任です。昨日そこに中国の中央テレビの取材がありました。私も少しだけ出演しました。その偽札の見本をお見せします。偽造した偽札がなんと45億円という。この10円札で45億円といえば積み上げると90キロメートルで、富士山の30倍だそうです。中国のテレビではチョモランマの11倍という説明をしてもらうようお願いしたのですが、これだけの偽札をつくったのです。どのようにしてそれだけの偽札をつくったのかということは省きます。登戸研究所の話について、5月10日に川崎市平和館で講演させていただきましたが、とにかく知るといことがとても大切だと改めて思うわけです。

昨年の第5回証言集会での講演の記録を配布してありますが、昨年のタイトルは「無知は無恥なり」と題して、戦争の体験を風化させないためにしっかりと勉強しましょう、と提起させていただきました。知らないということは国際的に恥をさらすことですよ。日本人は知っていることが少なく、知らないことを自慢にして、大きな顔をしてたとえば田母神さんの場合ですと、田母神論文が英語で出版されているのですよ。今年の「中帰連誌」に田母神論文を分析した文章を掲載していますが、私は本当に怒り狂っています。歴史家としては本当に許せないことがいっぱい書いてありますので、私が反論を書きました。

しかし皆さん、残念ながら私がこのような論文を書いてもせいぜい900部です。田母神さんは1回の講演で1000人とか、2000人集まるのです。この物量作戦の違いはたいへんなものです。私がBKU(撫順の奇蹟を受け継ぐ会)の、このようなところで何

回も何回もお話をするということも「チリも積もれば山となる」です。今年に入って私は川崎の平和館、中国の清華大学、北京大学、南京大学、の3か所で話してきました。日本の戦争責任ということで話してきました。9月には重慶でも話す予定になっています。やはり無知であってはいけないということをどんどんと広めていかなければならない、と思うわけです。

昨年私が「無知は無恥なり」と書いて、話したことがこの1年間に実証されてしまいました。こんなことはありえないと半分思いながら話したわけですが、それが田母神論文に現れたのです。なぜ川崎平和館で登戸研究所のことを話したかという、川崎市市議会で川崎平和館を潰そうという、あるいは歪曲しようという動きが具体的に出てきているのです。私たちとしては闘わざるをえません。先日、若い研究者に講演した時に私はこう言いました。諸君！諸君らがどんなに勉強して実証研究を積み重ねても、田母神さんのような世論がワーッと出てきたら、お前たちの研究など屁の突っ張りにもならないのだ、と。研究熱心な若い歴史系のオーバードクターだけでも1万人近い人がいるわけです。その方たちが一生懸命に日々研さんに励んでいます。

この若い歴史研究者の努力がこれこそまさに歴史を作っているのです。最近宮部みゆきの「英雄の書」という本を読んでいてなかなかやるなあ、と思ったのは要するに我々が知っている歴史というものは全部作られた物語なのです。私はかつて、「歴史家は神様です」と書いたことがあります。なぜならばわれわれが知っている歴史というのは、全部歴史家が歴史事実を調査研究し、史料を積み重ねて書き上げたものなのです。そしてそれが歴史認識に深まっていきます。だから一生懸命に歴史事実を勉強して実証して書いても、事実にもとづかない、田母神さんのようなこういう乱暴なことを書かれたら、そしてそれが日本の無知なる人々に信じられて、それが歴史事実だと理解され、それが日本人の歴史認識になっていくとなると、いったい何のために我々が研究しているのでしょうか。そのように考えると歴史家としては絶望感に陥ります。打ちひしがれる思いがします。

私も40年以上歴史関係の勉強をしてきました。おもに、日中関係、中国共産党の歴史などの研究をもくもくとやってきましたが、それがあっという間に消されてしまうのです。田母神さんのこの論文を読んで、情けなくて涙が出てきましたよ。彼の言葉によると、これが「日本人の常識」だということです。

自分のことを「日本人の常識」だとおっしゃっているのですが、それでは田母神さんがお書きになっている歴史事実ということはどういうことでしょうか。そして川崎市議会で「川崎市平和館の解体」、歪曲、そういうことを主張しているその人たちの主張はなんでしょうか、そのことをテーマにして今日の話をしませう。

何が問題なのか、ここからは細かい歴史事実の関係で説明をしなければなりません。これは皆さんとともに無知であってはいけないことのお勉強でありますので、お付きあいください。

3ページからの資料は、姫田先生から用意していただいたレジュメと年表です。本文は4ページ下段からです。

歴史事実と歴史認識との挟間で；タモガミはなぜもてる？！

<2009年5月30日 撫順の奇蹟を受け継ぐ会（BKU）神奈川支部>

(1) はじめに；この一年

昨年の講演「無知は無恥なり」を読み直す。良くできていると自画自賛。同時に恐ろしくなる。予想していたことがもっと厳しい形で現実のものとなっているから。・・・田母神論文・議会証言（『中帰連』2009年1号で反論する。中帰連の方々も書かれているので是非ご覧ください）

・・・川崎市議会での「川崎市平和館」攻撃（5月10日講演）

(2) 何が問題なのか；歴史事実の無視、軽視、そして歪曲（年表添付）

・それによって作られる歴史認識の危うさ怖さ・・・幾つかの事例

1；盧溝橋事件—日中全面戦争をめぐる問題—中国共産党・モスクワの陰謀説、ソ連のスパイ（蒋介石・張治中）説—中国に負けたと思いたくない人々の共通項か？

2；日米戦争は日本の責任ではない？！これもアメリカに潜んでいたソ連＝コミンテルンのスパイの陰謀—東条は平和主義者？！

3；植民地・不平等条約は当たり前？！・・・弱肉強食、武力・強権支配

その他、一杯ありすぎて、また学術的反論は膨大になりすぎて。

4；国際極東軍事裁判（東京裁判）非難

(3) 今なすべきことは？！；大量垂れ流し情報、歪曲された歴史事実への反論、歴史認識の正常化への努力

—先ず歴史事実有りき—調査・研究—叙述（書物・教科書等）—歴史認識

この逆が横行—先ず歴史認識有りき—お飾りとご都合主義の資料—叙述・宣伝

- ・ 歴史は夜作られる？！—一方で偏った情報・資料をもとに猛烈な宣伝・扇動を展開、他方で防衛大学学長（本来ならタモガミあたりと一緒に合唱すべきなのに？！）のようなまともな議論の抑圧非難キャンペーン
- ・ 防衛大学、防衛研修所といったところでも、まともな研究・議論をしている人々は沢山居る。自民党・民主党でも然り。排除したり毛嫌いしてはいかん！
- ・ 簡単に騙されてはならない。綺麗ごとだけの歴史がいかに誤っているか、その誤りが再び過去の同じ過ちを繰り返すような国民世論にならないか。そうならないために、そうさせないために、戦わざるをえない。われわれ日本人の誇りは、過去の過ちを乗り越えて、美しい未来の平和のために努力し戦っているところにある。暗いとか自虐的だとかいった歴史偏愛史観の扇動に動揺してはならない。

参考年表（*印が上記の問題点）

*1931年9月18日；柳条湖事件（満州事変）・・・「15年戦争」（鶴見俊輔）というのは間違いだという説（秦郁彦以来・・・しかし今では教科書でも使用）

1936年12月12日；西安事変

*1937年7月7日；盧溝橋事件（「北支事変」と称す）・・・「中国共産党の陰謀」だと

9月2日「支那事変」と称することを正式に決定

- * 同年 12月13日；国民政府首都の南京陥落—「南京大虐殺」（否定・幻説）
翌年10月；武漢・広州陥落、首都は重慶に
- * 1940年夏以降；「百団大戦」—北シナ方面軍による倅滅・掃討作戦開始、中国「三光作戦・政策」と呼ぶようになる・・・「三光作戦」の否定説あり。
- * 1941年4月13日；日ソ中立条約・・・45年8月ソ連軍は一方向的に攻撃してきたとの説
- * 1941年10月18日、東条内閣成立・・・極東国際軍事裁判（東京裁判）の宣誓供述書で、東条（陸軍大臣兼任）は「最後まで平和交渉」戦争反対だったという説あり（同年1月8日陸軍大臣東条の「戦陣訓」で「生きて虜囚の辱めを受けず」、11月1日大本営政府連絡会議、11月5日御前会議；対米交渉「帝国国策遂行要領」交渉打ち切りは12月1日と）
1941年12月8日；太平洋戦争（アジア太平洋戦争—大東亜戦争）同日、米英に宣戦布告（中国への宣戦布告なし） 12月9日、中国国民政府、対日独伊宣戦布告、12月12日「大東亜戦争」とすると閣議決定
- * 1945年8月14日；御前会議「ポツダム宣言」受諾を決定、
翌15日天皇玉音放送（米英中「ポツダム宣言」発表、8・10、政府、スウェーデンを通じ宣言受諾を連合国へ申し入れ、8・12、連合国の回答公電来る）
1945年8月15日；日本の敗戦・中国は9月2日；ミズーリ号上で降伏文書調印「抗日戦争」の勝利と

戦後の冷戦体制・構造

- * 1946年5月3日；極東国際軍事裁判開廷（東条英機ら起訴、6月18日首席検事キーン、天皇を訴追せずと）
1947年5月3日；日本国憲法施行（46・6・25衆議院で吉田茂総理「第9条は自衛権の発動としての戦争も交戦権も放棄したものと言明」）
1949年10月；中華人民共和国成立。
1972年9月；田中首相訪中、日中共同声明。日中国交正常化へ
1978年8月；日中平和友好条約

盧溝橋事件は

ソ連中央のスパイによる陰謀？！

レジュメに年表を添付してあります。年表を見ながら、どういう部分が田母神論文で問題とされているか、です。まず日中戦争、そしてそれが泥沼にはまりこんで太平洋戦争につながっていく重大

な事件である、盧溝橋事件が問題にされています。盧溝橋事件は中国共産党やソ連のスパイがやった陰謀だと言っています。そして何の根拠もなしに、後に国家主席になる劉少奇、総理大臣になる周恩来、この二人が「あれは共産党の陰謀だった」と言った、ということ平気で書いているのですね。あたかもそれが真実のようにかなりの人に行きわたっているのです。これが例の川崎市議会議員

の言葉によるとこのことが「きわめて濃厚になっている」と、議会の公式発言で言っているのです。

どこにそんな証拠や資料があるのか。そのことについて田母神さんたちが最も信頼して適用している秦郁彦さんという方がおられます。僕は仲がいいのです。一緒にニューヨークへ行ったこともありますし、お互いのいびきで寝られなかったと言いつつ仲でもあります。秦さんの悪口を言うつもりではありません。秦さんは立派な研究者であります。南京大虐殺についての人数の問題では彼は私たちと真っ向から対立する見解を提起しています。

ですから南京大虐殺否定派の人たちは秦郁彦さんの見解を大変に重視しています。田母神さんの論文にも秦郁彦さんの見解に依拠して書いてあります。盧溝橋事件についてです。その秦さんの研究に依拠しているはずの田母神さんの論文を秦郁彦さんはこう言っています。秦さんはユーモラスな方ですよ。『漫画的な低レベルのやり取りで極めて不快でした』『戦争をめぐるコミンテルン陰謀説云々とは、徳川埋蔵金があるとか無いとかのレベルの話です。』と毎日新聞でコメントしています。これは僕の作り話ではありません。田母神さんが一番根拠にしているはずの盧溝橋事件陰謀説を彼らが一番利用しているはずの秦郁彦さんが全面的に否定しているのです。

さらに防衛大学の学長である五百旗頭真さんはこう言っています。「軍人が自らの信念や思い込みにもとづいて独自に行動することは、自衛隊が社会における実力の最終的保有者であるだけに

極めて危険である」と。日本では自衛隊と暴力団と警察官しか武器は持っていません。豊臣秀吉の刀狩り以来、一般庶民が武器を持ったことはないのです。せいぜい鍬とか鎌を持ってムシロ旗を持って百姓一揆をやったくらいです。15, 6世紀から日本では庶民が一切武器を持っていません。最終的な武器の保有者は誰か。自衛隊です。その自衛隊が武力を行使するようなことを平気で言う。しかも空軍の司令官が、です。ゼネラル・オブ・エア・ホースですよ。議会の証言で平気で核武装まで肯定しています。

それを防衛大学の校長さん五百旗頭さん、この人とてもいい人です。僕はハーバード大学へ一緒に行ったこともあります。この人が防衛大学の校長になったということでもびっくりしました。良心的で、中立的で、本当に学者肌の人です。真面目で学究肌です。その前の松本三郎さんという方もとても真面目な方でした。防衛大学の学長は歴代真面目で学究肌の人ですね。

五百旗頭さんの批判に

どう応えるのか！

その方が、防衛大学を出ているから教え子筋に当たる田母神さんを真っ向から批判しています。痛快だと思いました。五百旗頭さんという方は日本政治史の研究者ですから、このように仰っしゃっている意味はすごくよくわかります。「軍人が社会における実力の最終的保有者であるだけに軍人が自分の信念で

行動し始めたら大変なことになります」ということの意味が。これは何のことを言っているかわかりますか。1936年の2・26事件のことを言っているのです。日本政治史の研究者ですから2・26事件のことを念頭において田母神批判を行っているのです。

そんなわけで、盧溝橋事件については完全なデタラメが日本の中に広まっているということを見ておく必要があるでしょう。どちらが先に撃ったか、ということが議論されていますが、まず事件が発生したときの条件を考えてみてください。事件の舞台の盧溝橋がどこにありますか。北京の中心部からわずか10数キロしか離れていないのです。そこで日本軍が軍事演習をやっているのです。日本軍はその時の夜間演習では実弾射撃はしていないと主張しています。空砲だったと言っていますが。中国軍にとっては「空砲」という概念はないのです。だから、日本軍が空砲であってもドンドンと撃っていれば中国側は攻撃されていると思います。

そもそも北京のすぐ近くで日本軍隊が駐留していて、しかも夜間演習をしていたのです。その途中で斥候が一人行方不明になりました。名前もはっきりしています。志村という兵隊です。この志村さんがいないときに点呼をしました。そこでこれは大変だということで中国軍に拉致されたと判断して日本軍の中隊長、大隊長、連隊長と順番に報告が上って、中国側と交渉しようとなった。この交渉の最中にその志村は帰ってきたのです。小用か何かで、帰りに道に迷ったのでしょうか。交渉では、行方不明者調査のために中国側の陣地に入らせろ、いや

入れさせないと押し問答があった最中です。7月7日の午後10時30分です。すったもんだのやり取りの過程で日本軍が砲撃をはじめてのが、8日の3時30分です。時間まで分かっています。

そこからの話です。皆さん、このことだけは覚えておいてください。兵士一人が行方不明になったと騒いだことから始まった。ところがその兵士はひょっこりと帰ってきました。そこで誰が先に銃を撃ったか、という争いになった。最初はそんな話ではなかった。そして第3の問題は、中国側も日本側も撃ったのだからもうやめましようと言っているのに日本軍の、大隊長連隊長クラスが、これが後に有名な一木連隊長、そしてインパール作戦のときの牟田口司令官です。この連中が、後に引けなくて戦争を始めてしまったのです。

ところが問題は、盧溝橋事件では全面戦争にはならなかった。それが全面戦争になっていくのは8月13日から上海に飛び火したからです。上海に飛び火したのはなぜか。これを田母神さんらや川崎市議会の方はこう言っているのです。これもやはりスパイがやったので、と。日本軍は戦争やりたくないと言っているのに日本軍を戦争に引きずり込むために中国軍がやったのだ、というのです。

ではその根拠は何なのか。ソ連のスパイとはだれのことか。張治中という将軍がやったというのです。この話は中国の人ならばだれでも笑ってしまいます。張治中という将軍はこのとき上海防衛軍の指揮官で、愛国心に燃えた軍人だったと言われています。この張治中将軍、当時中将ですが、このジェネラル・ジャンが、日本軍がいやだいやだと言っている

のに攻撃をかけてきたから戦争がはじまった。誰が言ったかという『マオ』という本がありまして僕も読みましたが根拠は何もないのです。状況証拠だけです。張治中は、当時中将で上海防衛軍の最高指揮官の一人でしたが、後に彼は1949年、中国共産党が大陸を最終的に支配した時にウルムチにいて西北軍区の軍政の最高指揮官だった。彼は国民党には勝ち目はないし、平和裏に中国を解放したほうがいい、という考え方から、降伏したのです。

これがスパイ説のもとになっているのです。戦わずして共産党に下ったという。しかしそれは1949年の話です。今話しているのは1937年8月の話です。それ以外に何かあるか、マオという本を読んでみたのですが何にもないのです。後に共産党に降参した。だからさかのぼって37年からソ連のスパイだった、コミンテルンのスパイだったと、誰が実証できますか。

研究者が泣きますよ。誰もそんなことは言っていない。日本が中国と全面戦争をやり始めた盧溝橋事件、それと第2次上海事件は日本の責任ではなくて中国側の責任であるということがこれらの人々の主張です。しかし以上述べたように、この話は全く根拠のないでたらめな話であることをご記憶いただきたいと思います。

東条英機は平和主義者だった?!

さらにもっとびっくりすることです。が日米戦争について、1941年12月8日の太平洋戦争勃発も日本の責任で

はない、と言いはじめたのです。川崎市議会の謀議員が、**東条さんは一貫して平和主義者だった、日米開戦にはズーっと反対していたのだ**、と公然と言っています。

この年表を見てください。年表を見ていただくとわかるように41年12月ではなくて、その前から東条さんは陸軍大臣として、戦争遂行のために一貫して強硬な立場をとってきています。ではなぜ、東条さんが平和主義者だったなんていえるのかというと、戦後の極東軍事裁判で、陳述書の中で「私は最後まで平和交渉をやった」と言っている。それが証拠だ、というのです。今日の金子さんの話でもお分かりのように、中帰連の方たちが本当のことを話すまでに3年かかっているのです。

東条さんは数10日監禁された。そもそも裁判のときに「私がやりました」なんて本当のことを言うのでしょうか。「私は平和のために一生懸命に努力した」という。だがそれは事実とはまったく違います。こんなことは日本史を研究している人ならばだれでも知っています。日米開戦の直前の10月から12月にかけて何回も御前会議が開催されてきました。平和交渉を行ったというけれど、最終の最後通牒を出すのは12月2日だということを御前会議で決めています。12月2日までは平和交渉をやりま、と。それが平和交渉と言えるのでしょうか。戦端を切り開くのは12月2日に決定します、ということを行っているにすぎないのです。そしてみなさんご存じのように、パールハーバーに突っ込んでいくわけですが、そのパールハーバーの件もアメリカのローズベルト大統領が知っていて日本にやらせたのだと

ということがまたまた「最近の常識」というものになりかかっているのです。

要するにコミンテルンのエージェントがローズベルトやハル国務長官の近辺にいて、そのコミンテルンのスパイ、そのエージェントがハル国務長官とローズベルトに大変大きな影響を与えていたのだということを田母神さんは言っているわけです。

そこで、その根拠になるのは何か、というとベノナファイルというものがあって、これは各国エージェントの暗号による通信連絡の記録のことで、コミンテルンとアメリカにいたエージェントとの交信記録をまとめたものがこのベノナファイルだ、と言っています。アメリカの友人に聞きますと「それはかなり有名な秘密ファイルです」ということでした。それではベノナファイルの中のローズベルトの側近にソ連のエージェントと思われる人がいましたか、と聞きました。そんなことは誰も言っていません。かなり詳しい研究書があるそうです。その本の中でもベノナファイルの中の秘密文書の中にコミンテルンのエージェントがローズベルトの側近にいたなんてことは証明できないと言っています。

田母神さんは本当にもの知らずだなあと思ったのですが、ベノナファイルは戦後のかなりの時期まであるそうですが、コミンテルンの成立以来と言っているが、1943年にコミンテルンは解散しています。戦後までずっとコミンテルンの秘密文書がある、と田母神さんは言っているのです。それによってアメリカがコミンテルンによって動かされたと言っているのです。これは全くのウソです。完全な誤りです。コミンテルン

は43年に解散されているのです。なぜ戦後まで影響するのですか。なぜベノナファイルが43年以降もあるのでしょうか。僕の友人で、アメリカの研究者は腹を抱えて笑っていましたよ。そんなバカなことはない、と。43年に解散された事実を知らない。本当無知ですね。冷戦体制がつながっていくその間中ずっとコミンテルン、コミンフォルムに変わっているのですが、存在した、と錯覚したわけです。一貫してソ連とコミンテルンの陰謀だ、国際極東軍事裁判もそう。戦後の動きは全部ソ連とコミンテルンの影響のもとで動かされたのだということが田母神さんたちの主張です。

アカは大嫌い？

傑作ですね。戦後の日本の政治的、国際的立場は国際極東軍事裁判で、その戦犯裁判を受け入れるというところから始まって、アメリカとの単独講和が成立した。これが大問題になって、80歳以上の方なら誰でも知っていることですが、単独講和か全面講和かとおおもめがあったわけですが、アメリカを中心とするいわゆる自由主義陣営と単独講和を結ぶことで日本の国際政治上の進路が確定してきました。ところが、田母神さんをはじめ戦後の秩序を否定する人はアメリカの指導や、国際的な地位を否定しているわけです。面白いことですが田母神さんとか、川崎市議会の人には反共主義でアカは大嫌いという、これはわかりますよ。また、渡辺昇一という変な学者がいます。僕が南京大虐殺はあったということを書いた本を出したのですが、彼

はなんと言ったか。

南京大虐殺なんか認める者は反日のアカだ、と書いているのです。僕はアカです。彼は白か。面白いですね。反日の赤だ、というのです。そう言われると、日本人は赤だといわれると怖がられます。家のおふくろも死ぬまで「赤になってはいけない」と言っていました。赤って何のことか知らないのです。共産主義は怖い、コミンテルンは怖い、ソ連はめちゃくちゃこわいよ、と。その赤というのは日本の1920年代からの治安維持法を含めた反共教育、日本人に「アカ」と言ったら反射的に怖いという意識をたたきこんできたわけです。

だから南京大虐殺を肯定する、三光作戦を肯定する、それが加害の事実だと言えば反日だと言われます。そんなことばかり言う人は少し頭がおかしいのだということでもいいのですが、冷戦体制が自由主義陣営がアメリカを中心にでき上がり、共産主義陣営がソ連を中心にして出来上がった、この冷戦体制思考というものが反共主義のもとにおいて一貫しているわけです。

そしてすべての陰謀は共産主義＝赤がやっている、とどんどんそのように言っていくとつまるどころ戦後の日本の国際秩序まで否定してしまうことになるのです。これが面白いです。「反共」だけでなく「反米」になっているのです。田母神さんは真っ向から「反米主義」になっています。「反共」と「反米」がいっしょくたになっているのが現在の田母神思想です。

私の話のサブタイトルでは田母神さんは何もせず、と書いたのですが、第1に申し上げたいのは日本人の根底、頭の

中に叩き込まれた「反共」「アカ」、これに迎合しているのです。なんでもそれが「共産主義の陰謀だ」と言えばそれで通ると思っているのです。これが恐ろしいことです。

植民地や不平等条約は当たり前?!

私が田母神さんに一番けしからんと思うのは、今日金子さんの話の一番の怒りを込めて話された部分であり、侵略戦争の根源である「加害責任をとるべきだ」、というこのことを一切認めないということです。ここがこの人たちの共通項であります。その根拠である加害責任をなぜ認めないか、というと、田母神さんははっきり言っています。植民地とか不平等条約などは当たり前なのだ、と。

植民地にされたほうが悪いのであって、弱肉強食の20世紀の中で不平等条約を結ばされた方が悪いのだ、見てみろよ、イギリスだってフランスだってドイツだって皆やったことだ、と。同じことをやって、日本だけがなぜ悪いのか、という論理です。戦後の1960年代に盛り上がったアジア・アフリカの植民地解放運動とか、そういうことは彼の頭の中には一切ないのです。19世紀、1840年からのアヘン戦争の結果42年に結ばされた南京条約の後から、ずいぶんいろんな不平等条約を結ばされてきたが、そういうことは日本から見ても何の悪いことをしたわけではない、弱い奴が悪いのだという。この言葉は今の政治にそっくりだなあと思うのです。

今の政治は弱肉強食の時代です。弱い者は淘汰されるのは当たり前です。この

ような政治に支配されているからこそ田母神さんのような論理を平気で言えるのです。心の痛みは何もありません。またそれを拍手喝采する人たちがたくさんいるのです。なぜ強い国が弱い国に不平等条約を結ばせて、領土拡大して、何が悪いのか、と。その証拠として、いろんな条約を例として挙げています。だが、植民地解放運動や不平等条約に反対する運動については全く触れていません。

それどころか、日本だって不平等条約の改定にずいぶん苦労したのですよ。それは誰でも知っていることですが、明治維新を評価するとかしないとかの意見がありますが、明治の時代に日本が一番苦労したのは何かというと日本が植民地にならないこと、すでに結ばれている不平等条約を撤廃することが、国際政治における一番大きな悩みだったと、僕は思うのです。

司馬遼太郎さんが常々言っていました、明治の軍人と昭和の軍人は全く違う、と。いいとか悪いとかの判断を別にしていえば、明治時代の日本は国際社会の中で必死になって植民地にならないように頑張ろうとしていたのです。そのことが日清戦争にまで行き着いてしまったのです。田母神さんはこのことを知らないのかなあ。不思議ですね。不平等条約はまずくないと言っていますね。かつての日本が不平等条約から解放されようとして必死に苦労した結果、大正を経て昭和になって日本がアジアの盟主になるという考えになってくるのですね。

防衛大学の五百旗頭さんがいみじくも言ったように、武力をもった人間が政

治に口を出すべきではない、口を出すとこれは大変なことになる、という危惧は2・26事件から始まっていると言っていいでしょう。その2・26事件の主導的な思想とは日本が東亜の秩序のために先頭に立って、東亜の盟主になる、というこの考え方がはっきりと出てくるのです。

そこは明治初期の考え方と違ってきます。明治以来の日本人の苦労、さらに1945年以来の日本人の苦労、アメリカに指導されながら必死になって今までやってきたこと、平和憲法を含めてですが、そういうことが田母神さんにはまったく理解できないらしいね。何の苦労もなく日本はすくすくと富める国になった。強者の立場に立って戦争をやってきたし、戦後もそうだったのだというように、考えているとしか思えないのです。

歴史事実をしっかりと知って！

最後になりますが、このような歴史事実の問題をしっかりと知っていくということが、歴史認識を形成していくにあたってたいへん大事なことだということを33年間、学生に言い続けてきました。

ところで我々が知っている歴史事実というのは教科書に書いてあることです。あるいは宮部みゆきの言う物語などです。そういうものを通して歴史事実を考え、その事実を通して歴史認識を形成してまいりました。だから教育が大切です。そのための教科書はどのようにつくられるかということですが、教科書をつ

くった人たちの苦労話もありますし、60年代の家永裁判などを通じて教科書がつくられていく過程がはっきりわかってきます。つまり検定です。この「検定」をいかにクリアーして教科書を書くかということにたいへん苦労された話を私の先輩たちも書いています。

われわれが歴史教科書と言っているのは、まず歴史事実を確実に調査し、研究して、それが一般的な学説として通説になり、ようやく通史になり解説書になり、これが広く一般に広められ、認められて初めて各中学、高校の教科書になっていくのです。大変な苦労と、歴史研究者の着実な研究が基礎になっています。

たしかに研究によっては歴史事実が変わることもあります。研究が日々発展していくわけですから当然です。たとえば、僕たちが高校時代に習った中国古代史の「夏(か)」とか「殷(いん)」という国は、当時は伝説上の国だった。だが今は研究が進んできて実在していたことが実証されています。歴史の書き換えが現実におこりえた一つの事実です。このように歴史事実が研究によって変わっていくことはあるけれど、あくまでもそれは歴史事実の研究にもとづいて、それをわれわれが「知る」ということによって認識が形成されていくわけです。

そのような過程を一切抜きにしていきなり田母神さんのように「コミンテルンの陰謀だ」などとか、「張治中が悪いのだ」という話がどこから出てくるのでしょうかね。全く根拠のないこのようなことを平気で言うということは歴史事実を全く無視し、無知の上に国際的な恥を晒しているということになるのです。

「歴史は夜つくられる」という話があ

ります。実際にそれはあります。大臣などが、赤坂あたりの会合で「君ね、これは張治中が悪いということにしようよ」と言えば、文科省の検定官が「ハイッ、そのように指導しましょう」となるのです。たとえば南京大虐殺が犠牲者が30万人だった、などということは絶対に日本では書けません。せいぜい数万人とか10数万人とか、もっとぼかして「多数の民間人が殺害された」ということしか書けません。

こういうことがなぜまかり通るのかというと、残念なことですがわれわれが一生懸命に積み重ねてきた「南京大虐殺研究会」がありますが、そのような研究に基づかない別のグループが「そんなことは有りえない」と書いている本がいっぱい出ているのです。文科省の役人がこう言います。「あなた方の言うことはわかります」「ですが、まったく違う意見もあるのです」というのです。先ほどの田母神さんのいっていることも一つの意見なのです。

だから僕らは「廬溝橋事件は中国の陰謀ではありません」といくら言っても残念ながら文科省の役人が、陰謀だと書いてある本があります、とそちらの主張を採用するのですね。これが教科書検定の事実なのです。

だから声を上げなければ損なのです。言わなければ損なのです。こういえばひんしゅくをかうかも知れませんが、田母神さんのような無茶苦茶なことでも言わなければ損なのです。あの人たちにとっては。文科省の役人が「姫田先生の仰ることは・・・正しいとは思いますが・・・こちらの意見もありますので(姫田先生の仰ることは)載せられません」と。こ

れが教科書です。

だから私たちはこのようないい加減な議論が世の中に広がらないように闘わざるを得ないのです。最初に私が言いましたが、若い学者の皆さんが百万回も歴史事実を主張しても、こんなへんてくりんな論文一本で全部かき消されてしまうのです。

怒りはないのか！腹が立たないのか！金子さんも先ほど怒っておられました、金子さんとは別の次元で無茶苦茶に僕は怒っています。若い研究者はもっともっと怒って文科省のこんなご都合主義的なことではだめだ、きちっとした研究に基づいた真実を語れ、と。こういうことを歴史家として言ってもらわなければ困る。

こういうことで私は、何回でもBKUでお話しさせていただきますし、皆さんからもこういう話でよければいつでも参上します。50人、60人から少しづつでも歴史認識を広めていきましょう。日本人の無知を克服しましょう。

無知は力なのです。「知の力」という本が出ています。知の力は強い、と書いてあります。無知の力の方が強いのです。無知の力をひけらかせてあることないことを言いふらして、それを有名人の口

を通して言う。草薙君が、もし南京大虐殺は事実なのですよと行ってくればすぐ広がるのです。裸になって「憲法9条を守りましょう」と行ってくればみんな注目するのです。これは冗談ですが、日本人は有名人に弱いですからね。千葉県森田さんとかと言う人は有名人だと言うだけで当選してしまうのですね。僕も有名になりたい！有名になってBKU（撫順の奇蹟を受け継ぐ会）は正しい、中帰連の方たちが言うことは絶対に正しい、と言って回れば少しは言うことを聞いてくれるかも知れないなあ。沢田研二が9条を救え、という歌を作っています。沢田研二が言ってくれば多少は9条に関心を持ってくれるでしょう。

歌は歌えなくとも、もっと平たく、着実に歴史事実を広げていきましょう。金子さん、これからもお元気に歴史事実についてお話ください。ありがとうございました。

質疑でも活発な意見が出せれて、姫田先生からもさらに詳しく説明がありました。

機会を改めて報告します。